

不可解な担務変更はなぜ行われたのか？その真相を探る！

1月3日、新横浜駅営業第二の事務所にて、T助役と出勤前のHさんとが激しい口論となった。この発端は、正月の多客輸送の最中、通常では考えられない不可解な担務変更が行われていたからだ。

この日通常であれば非番となるB担当が、警察への遺失物の移管業務を8:45から超勤扱いで行うはずだった。しかし何故かこの日に限り、A担当に移管業務がそっくり丸投げされていた。このことによりA担当は、担当の電話番、作業の送配、帳簿類の整理、遺失物システムの検索依頼処理、業務の引き継ぎ等々の統括業務の他、所定のB担当が行うべき移管業務の書類作成、照合チェック、荷造り（半日がかり）、そして警察搬送・照合の業務など二担務分をこなさなければならない。したがってこの場合、案内業務を差し引いた業務比率は「0：200」となる。しかも正月の多客状況から、精神的負担も含めたA担当の業務量はその比ではない。あまりに不公平と言わざるを得ない。

このように著しく偏った担務指定は、安全性という概念をまったく無視している。むしろ意図的に排除したか、業務内容をまったく理解していない采配でしかない。実際、他の管理者に意見を求めると、その答えは一様にして「考えられない？」とのコメントであった。

まったく迷惑この上ない話である。

30分の超勤が無駄？ならば管理者の超勤はもっと無駄だ

ところで、T助役は、「会社の決めたことに文句があるのか！」と前置きした上で、担務変更の理由として「無駄な超勤だ！」ということあげていた。それはつまり、警察での移管開始が年始のため1時間後の9時30分とされたために「B担では、移動時間を考慮しても30分の超過勤務が発生してしまうため、より退出の遅いA担に、

二重の担務を課せてでも（安全性を無視して）この 30 分のムダを省く」ということが理由とされた。なんとも合理性に欠けるといえるか、根拠に乏しい言いわけである。

新年早々の助役がいる状況下での連日の大失態は、まだあまり知られていないようだが、明確に指摘しておく必要がある問題だと思う。

しかも、当然の問題を指摘したHさんに対して、逆に「暴言」を問題にしている。これでは開き直りと問題のすりかえではないか！かの助役は「管理者なら何をやっても許される」という単純な思考に支配されているというしかない。

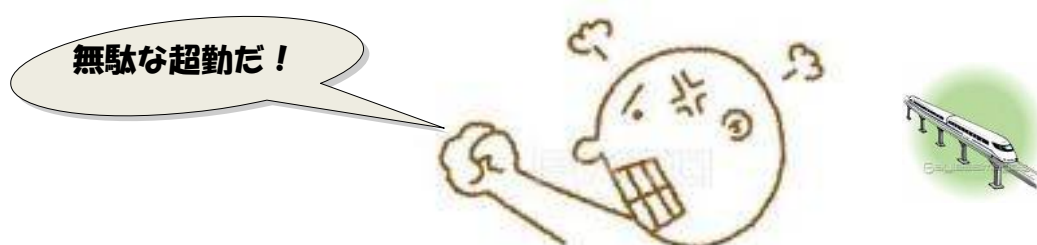
問題はまだある。社長が「ぜったい採算は採れない」とした膨大な予算を投じるリニア事業が着工された不可解さもさることながら、社員の僅か 30 分の待機時間を無駄とする一方で、当の管理者たちの無駄な超勤は問題とならないことこそ不可解であるといわなければならない。

不可解な担務変更・勤務変更は何のため？

また、営業第二では今回の担務変更だけでなく、これまでも不可解な勤務変更がなされている。台風時における翌日の日勤勤務者の出勤を巡っても、不可解な勤務の差し替えが行われていた。いずれもT助役が行ったものである。なぜ不可解なのかといえば変更の理由がはっきりしないこと、一部の社員だけにかぎられていることである。つまり、一部の社員だけに便宜を図るためのものであるといわざるをえないのだ。

管理者がこのようないいかげんな仕事を続けているのを見ていると、地域住民に「ご安心を」を繰り返すリニア中央新幹線の行く末を案じずにはいられない気持ちとなるのは言うまでもない。

※次回は管理者の日々の様子を明らかにします。



(今後の予定)

1月29日(木) 第1回労働審判 13:30 東京地裁

2月11日(水) 第28回東海労定期中央委員会 10:30 名古屋ワークライフプラザれあろ

2月22日(日) 新幹線地本第20回定期委員会 12:30 荏原第五区民集会所(大井町)